

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

<b>事業名</b> 東九州自動車道 <small>さいき かまえ</small> 佐伯～蒲江	<b>事業区分</b> 高速自動車 国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 九州地方整備局			
<b>起終点</b> 自：大分県佐伯市大字上岡 至：大分県佐伯市蒲江大字森崎浦	<b>延長</b> 20.4km				
<b>事業概要</b> 東九州自動車道 佐伯～蒲江は、九州東部の広域的な連携を図り、物流の効率化及び地域の活性化等を支援し、また、国道10号及び国道388号の災害時における代替路線としての機能を有することを目的とした事業である。					
H10年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H18年度用地着手	H18年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	約763億円	<b>事業進捗率</b>	約66%	<b>供用済延長</b>	0.0km
<b>計画交通量</b>	7,700～8,900台/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.6 (残事業) 7.0	<b>総費用</b> (残事業/事業全体) 187/824億円 (事業費：134/771億円) (維持管理費：53/53億円)	<b>総便益</b> (残事業/事業全体) 1,319/1,319億円 (走行時間短縮便益：1,120/1,120億円) (走行経費減少便益：108/108億円) (交通事故減少便益：91/91億円)	<b>基準年</b> 平成25年	
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=1.4～1.8 (交通量 ±10%) 【残事業】交通量：B/C=6.3～7.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.6～1.6 (事業費 ±10%) 事業費：B/C=6.6～7.6 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.5～1.7 (事業期間±20%) 事業期間：B/C=6.8～7.4 (事業期間±20%)					
<b>事業の効果等</b> ①沿線地域の企業誘致を支援 ・佐伯市内の工業団地等から最寄ICへのアクセス性の向上 ②救急医療活動の支援 ・第二次、第三次救急医療施設（佐伯市（第二次）、大分市（第三次））への救急搬送の支援及び救急搬送時間短縮による救命率の向上 ③災害に強いネットワークの構築 ・災害時における並行路線の代替路として機能 ・佐伯市最大の防災拠点である佐伯市総合運動公園や沿岸部とのアクセス強化を図り、地域防災に貢献 ④物流効率化の支援 ・佐伯市内の市場等から最寄ICへのアクセス性の向上 ⑤観光活性化の支援 ・観光における周遊性・アクセス性の向上 ⑥交通安全性の向上 ・走行環境の改善により、現道の死傷事故発生件数は減少し、交通安全性が向上					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 大分県知事をはじめとする九州東部の4県1市の知事と市長で構成される東九州自動車道建設促進協議会等により、早期整備の要望を受けている。(平成25年11月)					
<b>県の意見</b> 早期整備を強く望んでいるところであり、事業の継続をお願いしたい。					
<b>事業評価監視委員会の意見</b> 審議の結果、事業継続。					
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b>					

事業沿線の佐伯市では人口が減少傾向にあるが、一世帯あたりの自動車保有台数は、大分県・九州全体よりも高く、自動車交通への依存度は高い。並行路線の交通量は増加傾向である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度末の事業進捗率は約66%であり、そのうち用地進捗率は100%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。  
 ・佐伯IC～蒲江IC L=20.4km(2/4)：平成26年度開通予定

施設の構造や工法の変更等

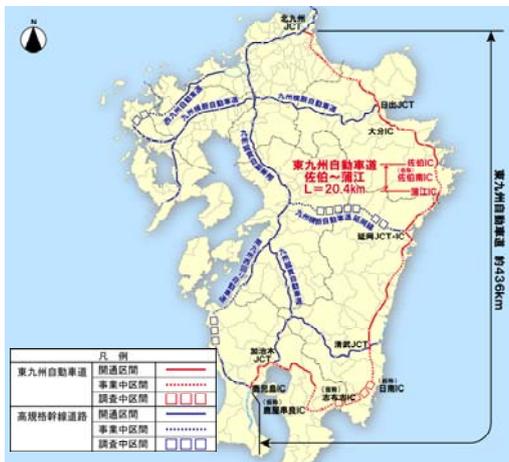
施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。